

# 2017年度 センター試験 地理B (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：35問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	○ 変化なし    ● やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  問題数は昨年と同数の 35 問。世相を反映してか、自然災害に関する問題が多く出された。例年出されていて昨年出されなかった「現代世界の諸課題」は今年も出題されず、地誌が中国、ヨーロッパと2題出題された。いくつかの文章選択問題がやや難しい傾向がみられたものの、ほとんどの図表の問題は紛らわしいところを解答に求めてくることなく、大きく易化した。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	世界の自然環境と自然災害	17点	全6問のうち、自然環境が4問、自然災害が2問の出題。問1の海底地形断面の問題は意表を突かれた受験生もいたかもしれないが、基本知識で解答できる問題であった。問5はアジアの被災者数・被害額が突出していることに気づきたい。
第2問	資源と産業	17点	資源と産業について広範囲で出題された。問1・3はやや難しい問題であったが、全体的には基本知識で解答できる問題であった。
第3問	都市・村落と生活文化	15点	問4の全都三県の人口増減の変遷問題は、やや難しい問題であったが、それ以外は特に迷うことなく解答することができる問題であった。
第4問	中国の地誌	17点	問2のハイサーグラフの問題は最後の絞り込みでやや苦戦するかもしれないが、落ち着いて考えれば解答できる問題。図表の問題は易しく、文章選択問題がやや難しいという今年の特徴が顕著にみられる。
第5問	スペインとドイツの地誌	14点	昨年とは異なり、同地域内の2か国の地誌であった。問3は連邦制のドイツの特徴がよく表れている問題であった。特に表1の読み取りは差が出る問題である。問4については受験生の考察力を問う良問であった。
第6問	壱岐島の地域調査	20点	問2の地形図の問題は、ダムに発電所の記号がないことに気づけるかどうかポイント。問6は居住する市町内での買い物が大都市の他に離島でも多くなることに気づければ解答できる。